

授業科目名	【G】 教養演習Ⅰ・Ⅱ		区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2	
			選択必修					
科目区分	基本科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	映画で学ぶ社会問題				担当者	豊岡 めぐみ		
授業概要	【概要】	映画を通して社会問題について自分で「考える力」を養い、論理的思考を身に着けます。さまざまなテーマについて、他者と「対話」をしながら考察を深めます。各自が自由にテーマを設定し、情報を収集して発表する機会も設けます。						
	【到達目標】	対話において①自らの考えを主張すること、②他者の考えを尊重し傾聴すること、③他者とともに「考える」ことを目標とします。また、プレゼンテーションにおいて④自ら問いを立てること、⑤問題を批判的に思考すること、⑥自らの考えを他者に説明し、他者との協働を目標とします。						
履修条件	特になし。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	フレッシュマン・セミナー							
教科書	特になし。							
参考書	授業中、適時紹介します。							
評価方法	発表・発言(50%)、授業への参加態度(50%)を総合的に判断する。							
フィードバック方法	授業内の意見交換、発表に対し、授業の中でフィードバックを行う。							
評価基準	授業に積極的に参加して、学習した内容を十分に理解し、課題を達成できた者にはその程度により「S」または「A」、やや不十分の場合には、その程度に応じて「B」または「C」とする。参加度や達成度が著しく低い者はその程度に応じて「D」または「E」、全く参加しないなど判定不能な者は「F」とする。							

授業 科目名	【G】 教養演習 I・II	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
		選択必修				
授業内容	<p>1. 思想と映画の関連性(第1～3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学者の思想を紹介し、思想と映画との関連性を探る</li> </ul> <p>2 映画と現代社会の問題をリンクさせて「考え」、「対話する」(第4～11回)</p> <p>3 映画と現代社会の問題を自分で「考え」、「発表する」 (第12～15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決める</li> <li>・映画を探す</li> <li>・現代社会の諸問題について、映画を通じて議論し発表する。</li> </ul> <p>(2では、同一の映画を見ながらディスカッションをする。それに慣れてきたころ、3に移行し、3では各自が映画を選定し発表する)。</p>					
予習内容	<p>発表のための事前準備(映画についての調査、レジュメやPowerPoint作成など)</p> <p>授業ごとの予習時間は120分程度を目安としてください。</p>					
復習内容	<p>各授業終了後に自分の見解をまとめておきましょう。</p> <p>授業ごとの復習時間は120分程度を目安としてください</p>					
その他	<p>映画だけでなく、特に漫画や音楽も使いながら授業を進めます。</p> <p>※Gカリ:【 I は選択必修(A)・II は選択必修(B)】</p>					